

会 議 録

会議名 (協議会等名)		第7回相模原市新たな火葬場を考える会				
事務局 (市担当課)		区政支援課 電話042 - 769 - 9814(直通)				
開催日時		平成28年11月2日(水) 19時00分～21時00分				
開催場所		津久井総合事務所 3階 第1・2会議室				
出席者	会 員	14人(別紙のとおり)				
	その他					
	事務局(市)	5人(区政支援課長、同担当課長、他3人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議事 新たな火葬場整備に係る候補地選定について (1)「新たな火葬場整備に係る説明会」等での意見 (2)津久井地区周辺のまちづくりの取組状況と再検討の結果 (3)最終候補地決定までの取組み 4 その他 5 閉会				

協 議 経 過

主な内容は次のとおり(は座長の発言、 は会員の発言、 は事務局(市)の発言)

市としては、津久井広域道路延伸部における火葬場の候補地については、市民を対象とした説明会等での意見もあり、改めて、市の関係部署で構成する庁内連絡会議において検討し、津久井広域道路の整備は、当分の間、事業着手できる状況にないことから、新たな火葬場整備については、津久井広域道路の延伸を含めた他の事業とは切り離して進めたい旨を本日の会議で説明した。また、地域振興の重要性は認識しており、本日説明させていただいたとおり、津久井地区ではまちづくり事業など大規模な事業が計画されており、一部は実施されている。地域振興という点では、今後も市や区が関わりを持っていくものと認識している。

最終候補地(案)「青山」で火葬場が整備された場合、火葬場利用者の交通車両による土日の夕方の串川橋の辺りの道路への影響が心配である。

県道鳥屋川尻の渡戸自治会館の辺りの道路幅員は狭いため、火葬場利用者の交通車両による影響が心配である。

毎年8月第2土曜日に催されている「鳥屋の獅子舞」の際は、県道鳥屋川尻を通行止めにしており、火葬場利用者への影響が心配である。

県道鳥屋川尻の宮ヶ瀬湖の近くは、毎年、11月下旬から12月下旬の宮ヶ瀬イルミネーションの交通規制による道路混雑があるが、リニアの関東車両基地の整備により観光化が図られた場合、火葬場利用者の交通車両による影響が心配である。

「青山」の県道鳥屋川尻までのアプローチ部の雪対策についてはどう考えているのか。雪対策についての具体的な方法は今後の検討になるが、火葬場の利用に支障がないよう対応していく。

神奈川県内で火葬場を整備するにも関わらず、雪を懸念する質問や意見があるが、国内の雪の多い地域にも火葬場は存在することから、大きな課題ではないと思う。

土砂災害ハザードマップによると、「青山」の敷地部は、土砂災害警戒区域に指定されている。10月31日の津久井地区まちづくり懇談会において、市の防災関係者が、土砂災害警戒区域内では避難場所の指定はできないと言っていたと記憶している。整備する上で問題ないことを確認した上で、最終候補地とするか判断をした方が良いと思う。

土砂災害警戒区域については、土砂災害が発生した場合に、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれがある区域とされており、災害情報の伝達や避難が早くできるよう、警戒避難体制の整備が図られる区域という意味であり、区域内に火葬場を整備することは可能である。今後、基本計画の中の敷地の安全対策に資する調査として地質調査を行っていきたい。

9月25日の「青山」に近接する鳥屋地区の馬石自治会への説明会では、火葬場整備による工事車両を心配する意見はあったが、特段反対意見はなく、今後も継続して説明して欲しいという意見が多かったと思う。

火葬場という特性を考えると、馬石自治会から、特に反対意見がなかったことは良いことであると思う。

- 会員として、最終候補地（案）が「青山」になった理由を住民に説明できない。住民から批判的な意見をもらうこともある。
- 市は、一方的に説明するのではなく、会員の意見を尊重し、納得できるよう進めて欲しい。
- 考える会は候補地選定の決定機関ではなく、意見を言う場であることを会員が認識する必要があると思う。
- 市は、考える会で説明し、意見を聞きながら検討を進めていくとのことであるが、串川地区住民の意見より、考える会での意見を主にしていることについて、串川地区住民の印象は良くないと思う。
- 先に住民に説明すると、混乱させることになるし、会員は住民から批判的な意見をもらうことになると思う。市は、まずは考える会で説明し、会員が理解することが必要だと思う。
住民の理解を得るために、どの団体にどのような説明が必要なのか、会員から意見をいただきたい。
- それは市が考えることだと思う。
- 市は、丁寧に説明し、理解を得たいと言っているにも関わらず、11月に最終候補地（案）から最終候補地とすることは拙速だと思う。地区住民は火葬場という特性から被害者意識があると思う。説明するだけでなく、理解を得ることが重要だと思う。住民から理解を得るための方策を市から提案するといった視点が欠如していると思う。
本年11月に最終候補地（案）を最終候補地とすることはない。理解を得られるよう、引き続き、努めていきたいと考えている。
- 何人かの住民に聞いてみたところ、市民を対象とした説明会があったことを知らなかった。地域情報紙を回覧しても読まない人もいる。理解を得る段階にはまだ達していないと思う。
地域や市民については、9月15日、18日、22日の3日間の市民を対象とした説明会で説明責任を果たしたとは思っていない。今後も継続的に説明していく。
- 市がどれだけ丁寧に説明しても、最終候補地（案）の「青山」と、「旧津久井4町地区代表意見交換会」で火葬場の候補地として良いのではないかとの意見があった場所は、異なっているため、津久井地区の考えを汲まなければ、理解は得られないと思う。「旧津久井4町地区代表意見交換会」からやり直したほうが良い

と思う。

○第3回の会議において、平代山の市有地を候補地の1つとしたらどうかと提案したが、市は候補地の1つとしなかったことから、一方的に7箇所の候補地を設定したと思っている。

○3つの候補地の評価と比較は市の内部で行っており、外部の者が加わっていないことは疑問がある。

候補地は事業者である市が選定するという前提がある。平代山の市有地や「寺沢奥南」については、当時のまちづくり懇談会等で意見として挙がっていたものと認識している。平代山の市有地については、庁内での7箇所の候補地設定検討において、高額な造成費が想定されること等から、候補地の1つとすることは適切ではないとの判断である。

最終候補地（案）とはならなかったが、市としては、「寺沢奥南」や津久井広域道路延伸部での候補地設定の可能性についても検討した結果を報告している。

○平成27年3月の「旧津久井4町地区代表意見交換会」での意見を考慮し、候補地については、津久井地区内において、市が選定することとなったと認識している。

9月6日に、「旧津久井4町地区代表意見交換会」に出席された立場の方と同様の立場の方を対象とした「緑区内の大規模プロジェクト等に係る合同説明会」において、検討内容に係る報告を行った。今後も適宜報告していきたい。

火葬場整備に反対するものではないが、津久井広域道路の延伸ができないのであれば、「青山」を最終候補地とすることについて理解することは難しい。候補地の選定については、もう少し議論が必要であると思う。

市としては、関係部署で構成する庁内連絡会議で検討した結果、現段階では、津久井広域道路の延伸や延伸を前提とした火葬場整備は難しいと説明している。説明が足りなかったとすればお詫びしたい。

津久井広域道路の延伸ができないのであれば、津久井広域道路以外の道路を整備することを考えないのか。延伸ができないという説明では、「青山」を最終候補地とすることについて理解できない。

本日説明したとおり、本市では津久井地区周辺において、津久井広域道路を含め、既に多くの取組みを進めているところである。

今後50年、100年先の将来の地域の発展を見据えた中で、火葬場の最終候補地を決定しないと住民の理解が得られないと思うことから、拙速に進めると、かえって長引くことも考えられる。

津久井地区周辺のまちづくり関連事業の説明が不十分であれば、「青山」を最終候補地とすることについて、理解を得られるよう丁寧に説明したい。

相模原IC周辺新拠点まちづくり事業、津久井広域道路整備事業、リニア関連事業の一体的な説明がなく、津久井広域道路の延伸はできないと説明されても、「青山」での火

葬場整備について理解できない。

火葬場整備事業を含めた4つの事業を一体的に取り組む組織を設置する予定はないが、状況に応じて、庁内関係部署が合同で説明することは考えられる。

考える会は火葬場の整備について意見を言う場である。どの部分の説明が分かりにくいのかという意見をいただきたい。

過去の会議において、市より、新たな火葬場整備事業については、津久井広域道路の延伸を含めた周辺の他事業と切り離して進めると説明されている。

市は、平成36年度までに火葬場を整備しなければならないと言っているが、2、3年の余裕はあると思う。最終候補地については、もう少し検討して欲しい。

住民が望むのであれば、津久井広域道路の延伸を含めた整備費が高額であっても、火葬場の供用開始が平成39年を超えても良いと思う。

これまでの説明のとおり、平成39年には、現在、古淵の市営斎場の火葬限度を超過が想定される。高齢化の進行に伴う火葬需要への対応は、本市のみならず、近隣の火葬場でも同様の課題となっている。平成24年度に整備された厚木市や上野原市、愛川町の斎場は別としても、八王子市の斎場や南多摩斎場などは、本市同様、概ね10年後には、火葬限度を超過することが想定されており、市民生活に支障が生じないよう、火葬炉の増設や火葬時間の見直しなどの検討を進めている。さらに、近隣の火葬場の火葬炉使用に係る住民の優先枠を考えると、本市の市民は、近隣の火葬場を利用し難い状況となることが想定される。このような状況に加え、平成4年に整備した古淵の市営斎場の大規模改修の必要性も迫られていることから、市民生活に支障が生じないよう、平成36年度中の供用開始を目途に新たな火葬場整備の検討を進めているところである。

市としては、庁内の関係部署で構成する庁内連絡会議で検討した上で、津久井広域道路の延伸や延伸を前提とした火葬場整備はできないという説明をさせていただいており、現時点での市の見解であることから、変わることは考えにくい。こうしたことから、津久井広域道路の整備や地域振興は、火葬場整備の検討とは切り離して進めていくが、津久井地区ではまちづくり事業など大規模な事業が計画されおり、一部は実施されている。地域振興という点では、今後も市や区が関わりを持っていくものと認識している。

市としては、今後、平成32年からの市の総合計画の策定を行うこととしており、緑区の区ビジョンも見直しが想定される。市民の皆様には、まちづくりに関する意見を含めて伺う機会もあり、厳しい財政状況ではあるが、そうした中で、反映できることもあると思う。本年11月に最終候補地(案)を最終候補地とすることはない。理解を得られるよう、引き続き努めていきたいと考えている。

以上

相模原市新たな火葬場を考える会会員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	関戸 佐助	津久井地区まちづくり会議		出席
2	高井 登志子	津久井地区まちづくり会議		出席
3	小野沢 良雄	津久井地区まちづくり会議		出席
4	内田 幸一	津久井地区まちづくり会議		出席
5	小河原 祐二	津久井地区まちづくり会議		出席
6	落合 勝司	津久井地区自治会連合会		出席
7	高崎 享	津久井地区自治会連合会		出席
8	廣瀬 市郎	津久井地区自治会連合会		出席
9	八木 猛	津久井地区自治会連合会		出席
10	榎田 達雄	津久井地区自治会連合会		出席
11	成瀬 博	津久井地区自治会連合会		欠席
12	毘谷 泰之	津久井地区自治会連合会		欠席
13	下園 克秀	津久井地区自治会連合会		出席
14	門倉 豊	津久井地区自治会連合会		出席
15	戸村 芳文	津久井地区自治会連合会		出席
16	樋口 一美	市民局次長		出席